

今年の紅葉巡り

清水 勝

今年の紅葉巡りは、素朴な丹波篠山の二山（圓通寺と高源寺）からスタートした。アクセスが悪い為か観光客は少なく、存分に秋日和を味わえた。味わいといえば、昼食に松茸ご飯、お土産には丹波栗と黒豆を購入した。

翌日は南禅寺界限別荘群の中で唯一通年公開されている山縣有朋の別荘だった『無漸庵』(予約制、一時間に二〇名限定、寄贈により京都市が保有)を訪ねた。東山を借景として、広々とした明るい芝生の庭に疎水から引かれた小川が流れる。庭を散策後には抹茶を頂きながら、山縣有朋の気分で再び庭を眺める。紅葉が美しい。

静かな時間を過ごし『無漸庵』を出ると、そこは人だらけ。紅葉の名所南禅寺、永観堂に向かう人々で満ち溢れていた。それを避け、非公開の別荘群を歩いてみた。

これらの別荘群は、広大な南禅寺の寺領を明治政府が上知令により没収し、その後民間に払い下げられて、生まれた。

その購入者は時の権力者や財閥など政財界の方々で、ステータスとして、趣向を凝らした日本の伝統的な建物・庭園が十五邸建てられた。ただ、その文化的な価値のある建物・庭園を維持する費用と労力は大変なもので、維持費は年間一億円も掛るといわれている。そのため

個人の資産家では保有できなくなり、会社所有の迎賓館や料理旅館、時には売却もされているようだ。その価格は昨今では百億円近いという。

現在のオーナーを見ると、なるほど成功者が手に入れていることがよく判る。

例えば、『對龍山莊』はトリHD所有、『智水庵』は元ZOZOの前澤友作氏の資産管理会社、『洛翠』はユニクロの柳井正会長兼社長の個人所有、『何有莊』はオラクルCEOのラリーエルソン。

異色は少し離れた所にある『清風莊』で、西園寺公望の別邸であったが、そこを管理・保有していた住友家から昭和十九年に京都大学に寄贈された。

静まり返った別荘群の塀に沿った道から、紅葉を求める人々で溢れる永観堂への道に出た。